



故元特命全權大使田村七太勲之早

加授ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和六年六月四日

内閣總理大臣男爵若槻禮次郎



内

閣



賞勳局告示第九八號

昭和六年六月三日

昭和六年六月四日
昭和六年六月十七日
昭和六年六月三十一日

昭
和
六
年
六
月
三
日
内
閣
書
記
官



内閣書記官 信田

内閣總理大臣

賞勳局總裁



故元特命全權大使正三位勲一等田付七太儀ハ明治二十九年十月領事官補ニ任セラレ爾來累進シテ大正十二年五月特命全權大使ニ任シブラジール國駐劄被仰付昭和四年一月依願本官ヲ免セラル其ノ間終始奮勵事ニ膺リ殊ニ大正六年五月以降ハ特命

賞勳局

全權公使又ハ特命全權大使ノ重任ニ在リテ帝國外交ノ樞機ニ參画シ國運ノ進展ニ寄與セル所尠カラス就中特命全權大使トシテブラジル國駐劄中ハ常ニ國家百年ノ大計ヲ案シ最モ心ヲ同國ニ於ケル本邦移植民ノ發展ニ注キ大正十二年十二月同國ニ於テレイス排日法案ノ下院ニ提出セラレタル際ノ如キハ寢食ヲ忘レテ百方本案ノ通過ヲ阻止センコトヲ企圖シ同國政界

學界又ハ協會或ハ言論界、社交界等
ニ接觸シテ我立場ヲ理解セシムルト共
ニ極力謬見惑説ノ匡正ニ盡瘁シ遂ニ
同國各方面ニ於テ多數ノ共鳴者ヲ見
ルニ至リ能ク其ノ成立ヲ阻止シ得タリ
今ヤ同國ハ我移民唯一ノ發展地トシテ
最近ノ渡航者年一萬數千人ニ及ヒ我
海外渡航者全數ノ六七割ヲ占ムルノ
盛況ヲ呈セルモノ同人奮闘ノ功與テ大
ニカアリ加之昭和二年八月移住組合
聯合會ノ設立セラレ、ヤ選レテ同會
理事長ニ就任シ錯雜困難ナル同會移
植民事業ノ創立ニ當リ不眠不休ノ
努力ヲ傾注シ克ク事業實行ノ緒
ニ就カシメ以テ帝國移民政策ノ遂行
ニ貢獻シタル等功績顯著者、者ニ候處
五月三十一日死去セル趣ニ付此際特ニ同
日附ヲ以テ旭日大綬章ヲ加授セラレ
度此段允裁ヲ仰ク

裏面白紙

故元特命全權大使正三位勳一等田村七太儀別記ノ通功績有之候處客月三十一日死亡致候ニ就テハ右功勞ヲ録セラレ特ニ生前ノ日附ヲ以テ頭書ノ通勳章加授被仰出候様仕度此段謹テ奏ス

昭和六年六月一日

拓務大臣 原 脩 次 郎
外務大臣男爵幣 原 喜 重 郎



外務省

旭日大勲章 故元特命全權大使正三位勳一等(瑞) 田付 七太
右者明治二十九年十月任領事官補以來外交官補、公使館三等書記官
公使館二等書記官、大使館二等書記官、大使館一等書記官、外務書
記官、大使館參事官ニ歷任シ元山、京城、佛國及露國ニ在勤シ大正
六年五月特命全權公使ニ任シ高等官一等ニ敘セラレ「チリ」國駐節
次テ「アルゼンティン」國、「ペルー」國、「ボリヴィア」國駐節
兼勤被仰付大正九年十一月轉シテ和蘭國ニ駐節シ大正十二年五月特
命全權大使ニ任シ「ブラジル」國駐節被仰付在任三年有餘、昭和四
年一月依願本官ヲ免セラレ而シテ此間明治三十三年清國事變ノ功ニ
依リ勳六等單光旭日章及金四百五十圓、明治三十七八年事件ノ功ニ

依リ金千圓下賜、明治四十年七月勳四等ニ敍シ瑞寶章ヲ授ケラレ次
テ明治四十一年八月旭日小綬章加授、越ヘテ大正二年十二月勳三等
ニ敍シ瑞寶章ヲ授ケラレ更ニ大正三四年事件ノ功ニ依リ勳二等瑞寶
章及金二千圓、大正四年乃至九年事件ノ功ニ依リ旭日重光章及金千
五百圓ヲ賜ハリ大正十二年六月勳一等ニ敍シ瑞寶章ヲ授ケラレ以テ
今日ニ至リタル處出身以來在官三十二年餘ノ久シキニ及ヒ終始奮勵
事ニ膺リ殊ニ大正六年五月以降ハ特命全權公使又ハ特命全權大使ノ
重任ニ在リテ帝國外交ノ樞機ニ參畫シ國運ノ進展ニ寄與セル所尠ナ
カラス就中其特命全權大使トシテ「ブラジル」國駐劄中ハ帝國及「
ブラジル」國間親善増進上ニ努力シタルハ勿論常ニ國家百年ノ大計
ヲ案シ最モ心ヲ同國ニ於ケル本邦移植民ノ發展ニ注キ或ハ親シク本

外務省

裏面白紙

邦移民ノ實狀ヲ視察シテ緊切ナル處置ヲ講シ或ハ同國當路ト折衝シテ我移民ノ利權開發上ニ力ヲ效シ或ハ重要ナル意見ヲ寄セテ我移民政策上ニ資スル等在任三箇年ノ間日夜拮据奮勵スル所アリ殊ニ大正十二年十二月同國ニ於テ「レイス」排日法案ノ下院ニ提出セラレタル際ノ如キハ寢食ヲ忘レテ之カ善後措置ニ膺リ克ク其成立ヲ阻止シ得タルハ特筆大書スルニ足ルモノトス

抑モ「レイス」法案ハ歐洲移民ノ誘入獎勵ヲ立前トシ黑人種ノ移入禁止ヲ行ヒ且黃色人ナル概括的名稱ノ下ニ其實日本移民ヲ制限セントスルモノニシテ右法案ニシテ通過センカ毎年本邦ヨリ入國シ得ヘキ移民ハ當時同國內現在者ノ百分ノ三ニ過キス即年僅ニ一千人内外ニ止マリ依テ當時帝國内ニ勃興シ來レル海外移植民發展ノ氣運モ茲

ニ梗塞シ帝國ノ對外發展上眞ニ憂慮ニ堪ヘサルハ素ヨリ帝國ノ不面目モ亦之ヨリ甚シキハ無シ
依テ同人ハ右情勢ニ應シ即時臨機必要ノ對策ヲ講シタルモ同國下院ノ形勢概シテ不利ニシテ遂ニ右法案ハ下院農務委員會ニ於テ全會一致ヲ以テ前記百分ノ三ノ制限ヲ「各地ニ就地セル農業者ノ百分ノ五」ニ修正可決ヲ見次テ下院財政委員會ノ審議ニ附セラレ令ヤ其運命ハ一ニ同委員會ノ裁決如何ニ懸ルニ至レリ
茲ニ於テ同人ハ百方本案通過ヲ阻止センコトヲ企圖シ同國政界、學界又ハ協會或ハ言論界、社交界等ニ接觸シテ我立場ヲ理解セシムルト共ニ極力謬見惑說ノ匡正ニ盡瘁シ遂ニ同國各方面ニ於テ多數其共鳴者ヲ見ルニ至リ其後右法案ハ尙多少ノ曲折ヲ經タリト雖モ大正十

四年七月下院財政委員會ニ附託セラレタル儘其擡頭ヲ見スシテ現在ニ及ヘリ之レ一面同國有識者ノ公正ナル措置ニ因ルモノアリシト雖モ同人ノ熱誠ナル活躍微リセハ焉ソ克ク茲ニ至ルヲ得ンヤ
尙同人ハ大正十五年五月及六月ニ亘リ官命ヲ帶ヒテ北伯地方特ニパラ州及アマゾナス州政府ヲ正式ニ訪問シ官民ニ對シ非常ナル好感ヲ與フルト共ニ同地方ニ對スル邦人進出ノ基礎ヲ確立セリ、今日同地方ニ邦人カ移植民事業ヲ始メントシ各種拓殖事業ヲ積極的ニ開始スルニ至レルハ之偏ニ同人ノ力ニ負フモノト謂フヘク又サンパウロ州地方大旱魃ニ際シ邦人珈琲栽培者ニシテ被害ヲ蒙リタル者少カラサルヲ觀ルヤ具ニ其ノ慘狀ヲ視察シ本國政府ト協力シテ之カ救濟ノ實ヲ擧クル等邦人移植民ノ保護指導ニ全幅ノ努力ヲ惜マサリシノミ

ナラス他方邦人ノ海外進出ノ爲常ニ機宜ノ措置ヲ執リ我國移民政策ノ遂行ニ對シ貢獻スル所極メテ顯著ナルモノアリ
爾來「ブラジル」ニ於ケル我移民ハ逐年増加シ今ヤ同國ハ我移民唯一ノ發展地トシテ最近ノ渡航者數年一萬數千人ニ及ヒ我海外渡航者全數ノ六七割ヲ占ムルノ盛況ヲ呈セルモノ亦以テ同人奮闘ノ功與テ大ニ力アリト云ハサルヘカラス
加之同人ハ昭和二年法律第二十五號海外移住組合法及同年內務省令第二十八號同法施行細則ニ依リ同年八月一日移住組合聯合會ノ設立セラルルヤ同月六日第一回臨時總會ニ於テ選レテ同會理事長ニ就任シ錯雜困難ナル同會移植民事業ノ創業ニ膺リ不眠不休ノ努力ヲ傾注シ同會事業ノ基本タルヘキ移住地ノ購入、渡航斡旋事業ニ關スル準

裏面白紙

備等ヲ初メトシ各種ノ調査研究並ニ地方講演等ニ力ヲ竭シ爾來昭和
六年二月二十五日其職ヲ辭スルニ至ル迄克ク右事業ヲシテ實行ノ緒
ニ就カシメ以テ帝國移植民政策ノ遂行ニ貢獻スル等其功績洵ニ偉大
ナリトス

外務省

履 歷 書

府縣

東京府士族

原籍

東京市本郷區龍岡町十四番地

舊姓名

田 付 七 太

慶應三年九月一日生

年 號	月 日	任 免 賞 罰 等	廳 名
明治三十九年	十月六日	任領事官補 叙高等官七等 元山在勤ヲ命ス	外務省
同	年十月三十日	叙從七位	
明治三十年	二月六日	京城在勤ヲ命ス	外務省
同	年十月二十五日	任外交官補 叙高等官七等 佛國在勤ヲ命ス	外務省
明治三十五年	十月四日	公使館領事館費用條例中改正	外務省
明治三十五年	十月五日	賜四級俸	外務省
明治三十五年	三月三十一日	賜三級俸	同
同	年九月三十日	賜二級俸	同
明治三十四年	一月三十一日	任公使館三等書記官 叙高等官六等 佛國在勤ヲ命ス	外務省
同	年三月三十一日	賜四級俸	同
同	年三月三十一日	賜三級俸	同
同	年六月十日	叙正七位	同
同	年九月三十日	賜二級俸	外務省
明治三十五年	十二月十八日	叙勲六等授單光旭日章	外務省
明治三十三年		清國事變ニ於ケル功ニ依リ勲六 等單光旭日章及金四百五十圓ヲ授ケ賜フ	賞勲局
明治三十六年	六月二十三日	任公使館二等書記官 叙高等官五等 賜三級俸	外務省

同	年	十月十日	敘從六位		
明治三十九年		二月七日	任大使館三等書記官 敘高等官五等	外務省	
同	年	二月二十七日	賜三級俸	同	
同	年	四月一日	陸敘高等官四等 賜三級俸	同	
同	年	五月二十一日	明治三十七八年事件ノ功ニ依リ金千圓ヲ賜フ	賞勳局	
同	年	五月二十一日	敘正六位		
同	年	十一月二十日	任大使館一等書記官 敘高等官四等	外務省	
明治四十年		七月十日	賜三級俸	外務省	
同	年	九月三十日	賜二級俸	外務省	
明治四十年		四月八日	陸敘高等官三等 賜二級俸	同	
同	年	六月三十日	敘從五位		
同	年	八月四日	授旭日小綬章		
明治四十一年		六月五日	任外務書記官 敘高等官三等	賞勳局	
明治四十一年		四月一日	賜一級俸 大臣官房人事課長ヲ命ス	外務省	
明治四十一年		四月一日	高等官ニ等俸給令改正ニ付一級俸		
明治四十五年		四月三十日	任大使館參事官 敘高等官二等	外務省	
同	年	六月二十日	露國在勤被仰付 賜三級俸	外務省	
同	年	六月二十日	敘正五位	外務省	
大正二年		十二月二十七日	敘勳三等授瑞寶章	賞勳局	
大正四年		八月二十日	露國在勤被免 佛國在勤被仰付	賞勳局	
同	年	十一月十日	大禮記念章授與	賞勳局	
大正五年		四月一日	敘勳二等授瑞寶章	賞勳局	
大正三四年事件ノ功ニ依リ勳二等瑞寶章				賞勳局	

外務省

同	年	八月二十四日	臨時外務省ノ事務ニ從事スルコトヲ免ス				
昭和二年		八月六日	海外移住組合聯合會理事長就任	外務省			
同		日	待命中本俸全額ヲ賜フ				
大正十四年		七月一日	ブラジル國駐劄被免	内閣			
大正十五年		十一月五日	臨時外務省ノ事務ニ從事スルコトヲ命ス				
同		年	一回國勢調査記念章ヲ授與セラル				
同		年	大正十年勅令第二百七十二号ノ旨ニ依リ第				
同		年	叙勲一等授瑞寶章				
大正十二年		五月九日	任特命全權大使 伯刺西爾國駐劄被仰付	内閣			
大正十一年		六月十日	叙正四位				
			大正四年乃至九年事件ノ功ニ依リ旭日重光章及金千五百圓ヲ授ケ賜フ	賞勲局			
外務省							
同		年	和蘭國駐劄被仰付	内閣			
同		年	賜一級俸	外務省			
同		年	授旭日重光章				
			〇〇圓				
大正九年		八月十八日	高等官官筆俸給令中改正ニ付年俸五、七				
同		年	亞爾然丁國駐劄兼勤被免	同			
大正七年		四月十五日	ホリウイア國駐劄兼勤被仰付	同			
同		年	亞爾然丁國及秘露國駐劄兼勤被仰付	内閣			
同		年	叙從四位				
大正六年		五月三日	任特命全權公使 叙高等官一等	外務省			
同		年	智利國駐劄被仰付 賜二級俸	外務省			
同		年	叙從四位	賞勲局			
			及金貳千圓ヲ授ケ賜フ				
同		年	賜二級俸	外務省			

前終後
五年八月
永正七年
不是一年

外務省	昭和三 年十一月十日	待命中本俸三分ノ一ヲ賜フ	外務省
	昭和四 年一月二十四日	大禮記念章授與	
	同 年二月十五日	依願免本官	
昭 和六 年二月三十五日	特旨ヲ以テ位一級被進 海外移住組合聯合會理事長倅職		

外務省第一九三

人機密第二三四號

昭和六年六月一日

拓務大臣 原 脩 次 郎
外務大臣 男爵幣 原 喜 重 郎

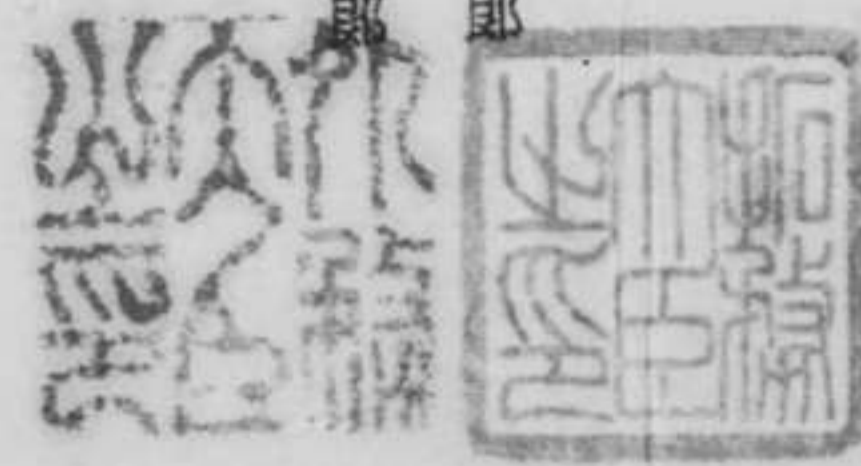
内閣總理大臣 男爵若 槻 禮 次 郎 殿

元特命全權大使 田村七太勳章加授ノ件

元特命全權大使 正三位勳一等 田村七太勳章加授ノ儀 別紙ノ通上奏致候間 可然御取計相成度 此段申進候也

別紙添付

391



裏面白紙

外務省

大 392

